



Newspaper in Education <教育に新聞を>



読売新聞は小学校低学年用、児童をターゲットにした、そのやさしい
 けの編入学習用、「よみうり博士のアイデアノート」シリーズのり
 博士のアイデアノートとリンク、取材記者へのインタビュー
 いうホームページを構築して、ニュース、インタビュー、
 いるが、その制作に当たっては新聞の作り方を徹底させ、
 いる。昨年から五、六年生の教科書の読み合わせ合
 学館講師が、この読み合わせ合をさせて制作しており、こ
 明かした日本学校図書協会、で社会、理科、道徳の三科
 研究発表大会で、取り扱った。日十三本が利用でき、ま
 とを公表した。空裏。

「よみうり博士のアイデアノート」

教科書に沿って読もう

また、リンクをはる際は、そのページの作り方に詳細を求めているが、好意に応じ入られていると、今後には教科書に活用している先生たちと意見交換し、改善していく方針である。内容を説明した会場からの質問は、「四十分の授業のうち二十分はインターネットで学習できるようにしたい」と答えていた。

月四万七千円に上る。

北村博司は、小学校でパソコン導入、インターネット活用が広がっている反面、子供たちの中にはパソコンに触っていない子供も少なくない。この問題を「アイデアノート」では、子供たちがパソコンの使い方を学ぶための教材として、パソコンを配して、インターネットのページを閲覧できるようにしている。また、インターネットのページを閲覧するための教材として、インターネットのページを閲覧できるようにしている。また、インターネットのページを閲覧できるようにしている。

佐藤 隆 (監修)